



令和2年3月 山形県教育庁義務教育課②

中学校外国語教材 Bridge で扱っている表現と題材

	扱っている表現(文法事項)		主な内容(題材)
1	感嘆文 How fast!	いつ、どの部分を扱う	オリンピックの観戦
2	感嘆文 What a good idea!	かは、学校や生徒の状況 に応じて計画することに なりますが、 ①同じような表現を学 習する単元で扱う ②同じような内容(題 材)の単元で扱う などが考えられます。	誕生日プレゼント
3	主語+動詞+目的語+原形不定詞 We can help you enjoy tennis!		中学校の部活動
4	感嘆文 What a surprising ending!		映画鑑賞
5	主語+be 動詞+形容詞+that 節 I'm sure that you'll enjoy my lessons.		オンライン英会話講師紹介
6	主語+動詞+目的語+原形不定詞 Let me tell you about my school.		日米の学校の違い
7	仮定法のうち基本的なもの If I had \$10,000 for the party, I w	ould have a famous chef	いとこの結婚式
8	主語+動詞+目的語+原形不定詞 The medicine lets you talk with animals.		面白い(架空の)薬
9	現在完了進行形 I have been waiting for 20 minutes.		友達との待ち合わせ
10	現在完了進行形 I've been doing my homework since this morning.		家でのお手伝い
11	仮定法のうち基本的なもの If we had a time machine, would you use it?		タイムマシーン
12	仮定法のうち基本的なもの If people didn't try to be eco-friendly, what would happen?		環境にやさしい生活
13	現在完了進行形 Everyone has been dreaming of super robots.		スーパーロボット
14	主語+be 動詞+形容詞+that 節 Children will be happy that it's a funny race.		変わったイベント
15	主語+動詞+目的語+原形不定詞 This will help you protect your ears.		ウェブニュース
16	仮定法のうち基本的なもの If I were you, I would ride the bus.		公園への行き方
17	主語+動詞+間接目的語+what 節 She asked her classmates what kind of store they want to go to.		店長の困りごとへの手助け
18	主語+動詞+間接目的語+that 節 Small shops and restaurants often tell them that only cash is accepted.		キャッシュレス

<u>表現 (文法事項) で考えると…以下のようなところで扱ってはどうでしょう?</u>

■感嘆文 →すでに現行の教科書で扱われているので、その表現が出てくるところ

■主語+動詞+間接目的語+what節 / that 節

→主語+動詞+間接目的語+直接目的語(名詞、代名詞、to 不定詞)のところ

■主語+動詞+目的語+原形不定詞 →主語+動詞+目的語+補語(名詞、形容詞)のところ

■主語+be 動詞+形容詞+that 節

→すでに現行の教科書で扱われているので、その表現が出てくるところ

■現在完了進行形 →現在完了形(継続)のところ

■仮定法のうち基本的なもの → 接続詞 if のところ

中学校外国語教材 Bridge の構成



言語活動の充実のためにも活用できる教材です!

授業では、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかにとどまらず、 習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、 状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できるようにすることが大切です。 「中学校外国語教材 Bridge」は、移行期間の補充というだけではなく、「話すこと」(特 にやり取りや即興性を意識した言語活動)や「書くこと」、読んだことについて意見を述 べ合うなど複数の領域を統合した言語活動を行う上でも有効な教材となっています。

中学校外国語教材 Bridge の活用方法

使用方法例(文部科学省からの説明より)

- 単元の後半で、教科書とは別の初見の英文として読ませる
- 「読むこと」に特化した単元の終末で活用する
- 「帯活動」で活用する 家庭学習の課題として活用する

例えば…案その1

- ① 単元の終わりに、 左ページの本文を読む(未習の語があっても内容を読み進める)
- ②「Check」で内容を確認する(生徒とのやり取りを大切に)
- ③「Talk」で生徒同士が表現をする時間をとる
- ④ 「Write」を家庭学習の課題にし、次回の授業の初めに発表させる

例えば…案その2

- ① 左ページの本文を読み、「Check」に答えることを家庭学習の課題にする
- ② 次回の授業の初めに「Check」の答えを確認し、「Talk」に取り組ませる
- ③「Write」を家庭学習の課題にし、次回の授業の初めに発表させる



新学習指導要領で求められる

「見方・考え方」を働かせる 言語活動を目指しましょう!

表現の幅を広げ